

第6回市民文化ホール建設委員会議事概要

日 時	平成 23 年 8 月 25 日(木) 19 時 00 分～21 時 05 分
場 所	福祉会館 3 階会議室 1
出席者	<p>委 員 土井健司、徳永幸夫、石川 久、井上 仁、大西高義、合田志保、近藤達之介、齊藤 正、篠原正博、鈴木 太、鈴木千明、高橋華子、高畠澄江、土谷浩也、古川静枝、星川将一、三谷一恵、村上典夫、守谷和久、四国中央警察署</p> <p>事務局 岡企画財務部長、河村文化ホール建設推進室長、今村室長補佐 吉岡建築住宅課長補佐、文化ホール建設推進室 石川、加地、福田</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

(協議概要)

項 目	協議概要
■会議の成立について報告	委員長: 委員 24 名中、ただ今 15 人の出席により委員の過半数の出席を確認したので委員会は成立。
■委員会の公開、非公開について採決	委員長: 本日の議題について非公開とすべき内容がないので公開することで提案したいが反対と思われる方はいるか。(反対意見なし) 反対意見がないので本委員会についてはすべて公開とします。
■議事概要と公表資料について	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回設計者選定仕様作成部会議事概要、第 5 回建設委員会(全体会)議事概要について説明。 ・公表資料→市民文化ホール設計に係る調査及び照査等業務、同提案書 ・説明のあった議事概要と公表資料について意見等ないか。(意見なし) 委員長: 意見がないので公開とする。
■プロポーザル実施要領公開までのスケジュールについて(案)	<説明 (空間創造研究所)> ○建設委員会及び設計者選定仕様作成部会のスケジュール(案) ・第 6 回建設委員会(全体会) (8/25)

→施設計画概要(大・小ホール、ホワイエ、リハーサル室、会議室、和室、管理諸室等のホール施設)

・第3回設計者選定仕様作成部会 (9/1)

→施設計画概要(案)のまとめ。プロポーザルコンペ実施目的の確認

・第7回建設委員会(全体会) (9/8)

→施設に関する市内部の要望説明と協議

・第4回設計者選定仕様作成部会 (9/15)

→前回までの確認及び計画概要の調整。実施スケジュール、応募資格について

・第5回設計者選定仕様作成部会 (9/22)

→前回までの確認。審査(選定委員会の構成、選定方法、手続き等)について

・第6回設計者選定仕様作成部会 (9/29)

→前回までの確認。その他の事項(一般的事項、報償など)について

・第7回設計者選定仕様作成部会 (10/7)

→前回までの確認。実施要領(原案)の最終調整

・第8回設計者選定仕様作成部会 (10/14)

→予備日

・第8回建設委員会(全体会) (10/21)

→実施要領(案)の最終確認

○市のスケジュール(案)

・実施要領(案)について市内部で検討後、実施要領の作成。プロポーザルコンペの公募開始 (10月下旬)

・市競争参加資格審査会。選定委員会(第1次審査)。(11月)

・選定委員会(第2次審査)、契約 (12月)

・これらの手続きの段階で必要に応じて随時、議会へ説明を実施。

・設計者選定仕様作成部会は、設計者選定の手続きについての議論の場になり、応募者の公平性を期するため非公開での開催を協議している。

<委員意見>

事務局:業者選定にかかる部分について、プロポーザルコンペの公募開始までは非公開にすべきであると市契約担当より意見があった。

委員長:第8回建設委員会(全体会)も非公開とするのか。

事務局:公募開始前であり、非公開となる。

委員:駐車場も含むホールの外回りの協議はいつ協議するのか。

事務局:記載していないが、今後協議していく。

委員長:他に意見がなければ事務局(案)の通り進めさせていただく。

<p>■要望書について</p>	<p><説明（空間創造研究所）></p> <p>■市教育委員会 →発表会の規模や内容に応じて使い分けできるよう、大ホールと小ホールの設置を希望。また、ホールに付随する施設として、リハーサル室、母子室の設置等も希望。</p> <p>■市文化協会三島支部謡曲部 →上質な移動設置可能な能舞台が必要。</p> <p>空間：基本構想には記載されていなかった、これらの要望を念頭に施設計画概要書(案)の説明を聞いていただきたい。</p>
<p>■施設計画概要書(案)について</p>	<p><説明（空間創造研究所）></p> <p>(1)大ホールエリアについて</p> <p>①大ホール ・大ホールが備えることが期待される機能、設備について</p> <p>②大ホール付属諸室 ・楽屋等諸室の計画について ・搬入口の計画について ・ホワイエの計画について</p> <p>(2)小ホールエリアについて</p> <p>①小ホール ・小ホールが備えることが期待される機能、設備について</p> <p>②小ホール付属施設 ・楽屋等諸室の計画について ・搬入口の計画について ・ホワイエの計画について</p> <p>(3)リハーサル・練習室エリアについて ・リハーサル室の計画について ・練習室の計画について ・リハーサル室・練習室共通機能の計画について</p> <p>(4)会議室・和室エリアについて ・会議室の計画について ・和室の計画について ・会議室・和室共通機能の計画について</p> <p>(5)管理諸室エリア</p>

- ・共通ロビーの計画について
- ・管理事務室の計画について
- ・警備員控室の計画について
- ・清掃員控室の計画について
- ・機会室等の計画について

<委員意見>

■大ホール関連

○楽器庫について

委員:大・小ホール、3台のピアノを保管できる十分な広さを確保可能か。

委員:すべての施設(大・小ホール、リハーサル室、練習室)でピアノを利用可能な動線を考えてほしい。

空間創造研究所:一般的なホールで貸し館の場合、各施設の備品として貸し出すため各施設1台ずつを想定し記載している。

○楽屋について

委員:基本構想では60人と記しているが、概要書(案)は40人となっている。あえて少ない数字を示さなくてもいいのではないか。

空間創造研究所:提案者に委ねる形で記している。提案者から多い数字で提案されるのでは。基本構想にオペラ、ミュージカルと記述があるため60人で収まるとは考えないのでは。リハーサル室、練習室が楽屋にもなるような配置計画を記述すればいいのでは。具体的に「少なくとも70人程度」とする。

委員長:基本構想及び募集要領記載の数字は再度検討したほうが良い。

○映写室について

委員:映写室は必要か。最近はプロジェクターの利用が主なのでスクリーンだけあればいいのではないか。

空間:現在はプロジェクターがないとコンベンションが成立しない。大ホールで使用するプロジェクターは光量、重量もあり仮設では難しい。

委員:プロジェクターは必要なものである。「室」ではなく「機能」をもたせることは可能では。将来的に映画館がデジタル化した場合、映写室があると、フィルムを映写できることがアピールポイントにもなるのではないか。音響室を集合することも可能。将来的にコストパフォーマンスが高いのでは。

委員:業者が上映する場合、500、1000席ではしたくないと聞いた。小ホールに機能を持たせるのが良いのか、大ホールでも可能なのか。

空間:映写室が無い場合、客席に映写機を設置しなければならず、映写機の音が問題である。遮音性能を考慮した映写室であれば問題ない。

委員：700席を区切って上映することもあるが、映写室を持っていれば1000人規模の上映会が可能。

○親子室について

委員：基本構想では親子室ではなく託児室を設ける意見だった。

空間：現在は親子室を親子室と呼ぶのが一般的である。上演中に子どもがぐずった場合の緊急避難場所的に利用される場合が多い。名称は親子室だが、ビデオ、写真撮影場所、影アナブース、同時通訳ブースとして利用できる多目的室とするところが多い。

委員：多目的室にすると広さは変わってくるのか。

空間：さまざまな利用で6人程度利用可能な広さがあればいい。

委員：サンポート視察時に同時通訳はほとんど行われないと聞いた。多目的で利用する必要があるのでは。

委員：有効活用しているとは思わない。託児室としてバリアフリーの項目に入れてはどうか。

委員長：親子室は明記しない。

○ステージについて

委員：奈落について、ステージ下に空間があると音響に悪影響があるのか心配。オーケストラがよく演奏するホールに小迫、奈落はあるのか。

→可児市のホールは走行型音響反射板を整備している。小迫もあるが東京交響楽団が利用している。小迫上にピアノの脚がかかると音が変わるが、悪影響を与える決定的なものとはならない。ある程度ものは成立する。

○大ホール全般について

委員：どのレベルの出演者を呼ぶかが音響等の重要なポイントになるが、議論できていない。機能などの議論と平行で協議すべきでは。

○花道について

委員：大ホールに花道があれば演歌歌手など呼びやすい。歌舞伎も可能では。

委員：花道をつければいいのか。

委員長：花道を再考する。

■小ホール関連

○ステージについて

委員：舞台は移動式なのか。

空間：舞台、通路、楽屋がフラットになるように考えている。

委員:多目的を優先するのか。

○客席

空間:昔の移動観覧席は良くなかったが、現在は良くなってきている。固定席と比べて完全ではないが、長時間の利用に耐えられなものではない。

委員:小ホールは音楽重視とすると移動観覧席は難しいと思う。小ホールが一番利用されるのでは。良い環境で市民に活動してもらうためには固定席がいいのでは。

委員:基本構想時は四国には質の良い小ホールが無かったので質の高い小ホールをと協議した。

委員:多目的とするメリットは？

空間:多目的とすることで、演劇、社交ダンス、練習室、展示場などに利用できる。概要書(案)は移動、固定どちらかにする必要があるので移動式観覧席として記した。

委員:移動観覧席は後部入り口が取りにくい。上演中の出入りを考えると小ホールには向かないのかと思う。逆に、フラットにできる大きな部屋を造るチャンスでもある。

○小ホール全般

委員:壁、天井の素材できしみ音など制御可能。300席の空間に合わせた設計で多目的を可能にするよう考えた方が良い。

委員:音響の良さを大ホールのアピールポイントとすればよいのでは。小ホールは音楽を楽しむだけでなく、多目的な活用を考えると利用率が上がるのでは。

委員:ユーホールも音響が良いと言われている。現在持っていない移動観覧席の施設を作るほうが良いのでは。

委員:移動観覧席が上演中の移動でも、音がしないしっかりしたものであれば利用率は上がると思う。ポイントは移動観覧席の質である。

委員:300席のホールに対しニーズがあるのか不安。音楽の催しは300席では不足する。500席の催しが多い。多目的なフラットな空間を造るのはチャンスと思った。リハーサル室100人、小ホール300人となると実際に利用があるのか。

委員:市民サークルの中には100人集めるにも苦労している団体もあるが、良い環境で催したいと考えている。良い環境があればやる気も出てくる。市民目線で考えると通常の小ホールの機能では満足しない。まったくフラットな空間のほうが良い場合もある。

<ホワイエ>

委員:大、小ホールの同時利用時、ホワイエを分けて利用できるようにし

てほしい。

委員:ドリンクサービスができる喫茶カウンターを想像しにくい。基本構想に記述があったのか。

空間:営業用途ではなく、打ち上げ時に利用者がお茶を飲んだりするカウンターと水場をイメージした。基本構想にはないが、機能は持っておいてよいと考え記載した。

空間:ホワイエを「待つだけ」の場所ではなく、開演前の社交の場、終演後の交流の場として利用される仕掛としてどうか。

■災害時避難所

委員:災害時避難所の諸元を考えなくていいのか。

事務局:9月8日の全体会で消防本部から説明、協議の予定。

■能舞台について

委員:常設の舞台でなくても出演者が舞台にあわせて対応することもある。大ホールでも設備があれば可能。

委員:大ホールで対応可能とすればよいのでは。

委員:能舞台は特別なものは必要ないのでは。

■諸室について

○バリアフリー

委員:バリアフリーに関する記述がほしい。

委員:バリアフリー全般について、別項目として記してほしい。

○施設動線

委員長:施設全般の動線の項目とあわせて、バリアフリーを記述していただきたい。

○機械室

委員:音や振動が発生する施設なので考慮する記述を。

○喫煙ルーム

委員:喫煙ルームについて考慮しないのか。

○楽器庫

委員:市内中学生の演奏会時、打楽器の運搬が大変。打楽器類をホールに備えてもらえれば。あわせて楽器庫の整備を。

委員:打楽器を備えることで楽器運搬の負担が軽減され、市外からの吹奏楽団等の参加が見込める。

委員:運搬時に楽器が傷むこともある。打楽器を備えることで利用率が上がるのでは。

委員:楽器を置くスペースが必要。

委員:ユーホールではスペースが無く練習室に楽器を置いており、練習室に入りづらい。楽器庫が必要では。

○会議室

委員:特別会議室の規模を決めておく必要はないのか。

委員長:会議室の収容人数は十分なのか。グレード感、規模等再考を。

委員:同時通訳可能とあるがどのような機能、設備が必要か。

空間:基本構想に記載があるので残そうと記した。機能としては仮設ブースを設けることを前提に必要なに応じてと記した。

委員:30人程度の会議室を間仕切りで少人数で利用できるような記述が必要では。

空間:二部屋で使えることが重要なのか。

委員:一度に100人程度収容できる会議室の利用も必要と考える。間仕切りを外すと100人程度利用可能なものを想定している。

委員:コンベンション機能を考えると地元だけでなく「四国の真ん中」という市外も対象とした記述も必要。グレード感があることは大切。PR次第では高い利用率が期待できる。

委員長:会議室全体を一つにするとグレード感が出にくいのでは。

委員:相反するところがあるので会議室の提案を設計者に任せてはどうか。

○喫茶コーナー

委員:喫茶コーナーは高い稼働率が予想される会議室エリアに充実した方が良いのでは。

■イメージの可視化

委員:協議中、委員がどのようなものか想像しにくいこともあるため、設計者が決まった段階でコンピューターグラフィックス等で可視化し、設計者が説明しやすいようにしてはどうか。

委員長:可視化について盛り込みむ。

■方向性

委員長:基本構想策定時、小ホールは「どこにもない質のものを」、大ホールは「高い音響機能は求めず、ある程度の規模があるもの」ということだったが、本日の協議では大ホールは音響の質を高める、小ホールは多機能化の方向も含め考えるということであった。

	<p>委員：小ホールは音響等のグレードを落とすのではなく、大ホールに類似した機能を持つことを前提にしなければ、どこにもないものはできないのではないか。設計者には小ホールの機能をしっかり考えていただきたい。</p> <p>委員長：細かく記載せず柔軟性のある記述にして、設計者に提案してもらう。</p> <p>委員：設計者が決まって、基本・実施設計時に協議してもよいのでは。</p> <p>(閉会)</p>
--	---